

カルメル 霊性センターニュース



2024年5月

408号

目次

| | |
|---------------------|-----|
| 目次 | 1 |
| 心の泉 | 2 |
| カルメル会の企画案内 | 2 2 |
| 東京 | 2 3 |
| 名古屋 | 2 6 |
| 京都 | 2 7 |
| 通信深読お申込みのご案内 | 3 1 |
| 諸所の企画案内 | 3 2 |
| 霊性センターニュース郵送終了のお知らせ | 3 6 |

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第一章 どれほどの尊敬をもって、

キリストを拝領しなければならないか

3 私のみじめさ

これほどの大きなあわれみと、愛に満ちた招きにはどのような意味があるのでしょうか？私は何一つよいことをした覚えはないのに、どうしてあなたに近づけるのでしょうか。み前にあってしばしば罪を犯した私なのに、どうしてあなたを私の住まいにお迎えできましょう！

天使と大天使とがみ前にあっておそれ敬い、聖人もみ前にあっておそれおのくのくに、そのあなたが私に向かって、「私に近寄りなさい！」と言われるのですか？あなたが言われたみことばでなければ、誰がそれを信じ、あなたの命令でなければ、誰があえて近づくことができるでしょう？

4 ノア、モーセ、ソロモンの模範

義人ノアは、少数の人々と共に救われるために、何年もかかって箱舟を造りました。それなのに私は、たった一時間だけで、全宇宙の創造主をふさわしく受けるために準備しようとするのです。偉大なしもべであり、あなたが特に愛された友人のモーセは、律法の板を納めるために、腐らない木を使って神の箱を作り、それを純金でおおいました。それなのに、みじめな人間にすぎない私は、律法の制定者であり生命のみなもとであるあなたを、これほどたやすく受けようとするのでしょうか？

イスラエルの王たちのなかで、もっとも知恵に富んだソロモン王は、み名をあげめるために、壮麗な神殿を七年かかって造り、八日間にわたって奉納を祝い、平和のいけにえを一千頭捧げ、ラッパの響きと歓呼のうちに、契約の箱を定め場所に荘厳に安置したのです。それなのに、たった半時間さえも敬虔に準備できない私なのです。ああ、半時間でなくとも、せめて何分かでふさわしい準備をしたい！人間のなかでももっとも貧しくあわれな私が、どうしてあなたをこの住まいに迎えられるでしょう！

5 ふさわしい準備

おお私の神よ、これらの人々はあなたに喜ばれるために、どれほど努めたことでしょうか。それなのに私がすることといたら、いかに少ないことでしょうか！あなたを受ける準備をするのに、どんなに短い時間で済ませることでしょうか！

私には、完全な潜心の時は少なく、気を散らさない時はほとんどないといってよいのです。それにしても、確かに救いをもたらすあなたの神性が下る時は、ふさわしくない考えをすべて捨て、どんな被造物のことも忘れていなければならないはずです。その時私は、天使ではなく、天使たちの主を住まいに迎えようとするからです。

親愛なるテレーズ、
教会は福音の明るさと香りと喜びを
光り輝かせる必要があります。
あなたの薔薇を 私たちに送ってください。
私たちがあなたのように、私たちへの神の愛に
いつも信頼できるよう助けてください。



そうして私たちが日々、
あなたの聖性の「小さな道」に
倣うことができますように」 教皇フランシスコ 使徒的勧告 *1



神さまが 私の望みをかなえてくださるなら、
私の天国は 世の終わりまで地上で人々を助けることになるでしょう！

「わたしたちを愛に導くのは信頼であり、信頼以外の何ものでもありません」

わたしの使命が始まろうとしています。
わたしが愛しているように、人々に神さまを愛してもらい
わたしの小さい道を人びとに示す使命が！ *2 150p

5月17日はテレーズの列聖記念日



マリアよ！
あなたのすぐそばで
わたしも小さいままで とどまりたい！
地上の偉大さは すべて虚しい
あなたが訪問された エリザベットの家で
わたしもあたたかい愛を
行なうことを学びます *3 164p

伊従 信子 (いよりのぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 1 「使徒的勧告」

* 2、* 3 「リジューのテレーズ 365 の言葉」女子パウロ会、ザンベリ編・伊従信子編訳

女性に、もっと大きな役割と責任を任せるべきです。
 決定のプロセスに女性が直接関わっていれば、
 避けられたはずの悲劇的な決定がいくつもあるのです。

フランシスコ教皇は、人類の歴史を絶えず念頭におかれ、キリスト者として発言されていると思われる。『ランダート・シ』にしても、ひと言でいえば、「環境を大切に」という当たり前のことだが、その内容とスケールは、今までだれも考えていなかったような画期的なものであった。

上の女性に関する発言も同様であろう。単に「女性を大切に」ということではなく、人類の歴史にさまざまな悲劇が起きた一因に、女性が政治的社会的分野から排除されてきたことがあったと見ているようである。つまり、これまでの人類の歴史は、男性中心の社会であり、女性は男性より劣る存在として扱われ、さまざまな決定において蚊帳の外に置かれてきたわけだが、そのことが数々の悲劇的な決定をもたらしたということであろう。

しかし、女性の視点は不可欠なのである。このことは、家庭を見れば、明らかであろう。子どもが調和のとれた人間として成長していくためには、母親と父親の両方の愛情が必要である。生活形態は、人類の発生から今日至るまで、大きく変化したことは言うまでもないが、男性と女性、父親と母親の役割は、それほど大きく変化してはいないのではなからうか。最近では、主夫業とか、イクメンとか、男性が家事や子育てに関わるころが当たり前のようになってきたが、より根本的なところから、すなわち、人類の創造の物語から家庭を見るべきかと思われる。性差を無視した単なる男女平等、フェミニズムは、自然的に見ても誤りかと思われる。

神は言われた。「我々にかたどり、我々に似せて、人を造ろう。…」

神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。(『創世記』1:26-27)

神は、男だけ造ったのでも、女だけ造ったのでもない。男と女が一緒になって、「神のかたどり」なのである。それは、キリスト教的には、何よりも父と子と聖霊の三位一体の神の「愛のかたどり」ということであろう。それは、キリストの最後の晩餐の「洗足」の行為において、また十字架の死において如実に示されている。男と女が互いに仕え合い、助け合い、赦し合う時、お互いに相手のために自分のエゴを捨て、自分に死んでゆく時、人間は神の愛のかたどり、神の似姿となっていくのである。その意味で、教父たちが考えたように、人は皆、「神の像」として造られたが、生涯をかけて、神の助けの内に、私たちも努力を重ね、「神の似姿」となっていくように招かれているのである。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（190）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

権威の行使において（4）

けれども、ほとんどいつも同じことについて話すのを聞いていた者たちは、うんざりしたのではないのでしょうか。

ところが、まったくそうではありませんでした。それは、テーマについての客観的な関心は別にして、彼の教えを説く仕方があまりにも人間味にあふれたものであり、あまりにも魅力的であったからです。そのことに触れている人々自身は、彼の弟子たちだったのです。

イエスのバルタザルは、こう言っています。「…私たちの主である神に対する彼の愛は、神の崇高さを語ることを通して、実に大きなものであることが示されました。彼の話は、いつも神についてでした。彼は、とても思慮深く、またぴりっとした味わいをもって話したので、疲れることもなく、聞くのをあきさせることもありませんでした。彼に耳を傾げるだけでも、彼が神の問題を取り上げ、語るだけでも、修道者たちは共同体と一緒に彼に会うことを望んでいました。なぜなら、彼の言葉は、神で一杯となった心と靈魂から出てくることは、まったく明らかだったからです」。

彼の聴罪司祭で、大いに信頼していたホアン・エヴァンヘリスタは、こう明言しています。「彼が話し続けることは、神についてでした。共同休憩の時も、他の場所でもそうでした。神を話題にする時、彼はたくさんのお恵みを受けていました。神の事柄を問題にしながら、みんなを笑わせ、私たちはみんな大喜びでその場を去りました。私たちはみな、集会の時も食後の夜においても、そうでした。その時、彼はしばしば一つ二つ短い説教をしました。夜に説教しないということは決してありませんでした」。

十字架のヘロニモは、このように事情を説明しています。「共同休憩において、彼は何かのことをとらえ、神について話す機会としました。私が覚えているのは、祈りの時間より共同休憩の時間の方が、ずっと私たちには役立つと言うのが常でした。霊的な火と光が沢山あったので、靈魂はそこから飛び出してしまうのでした。

(P. 九里訳)

復活節 第6主日

(ヨハネ15：9-17)

今日の福音は、有名なヨハネ福音書のぶどうの木のとえの中で、キリストが私たちに与えられた言うなれば唯一の掟、「わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい」(12節)の個所です。イエス様が私たちに示して下さった愛は、御父なる神様がイエス様を愛されたのと同じ愛です。御父なる神様とは、旧約で示されている神です。

旧約においても聖書記者は御父なる神様の愛を、イスラエルの民との様々な関わりを通して表現していました。父として関わって下さる神、母として関わって下さる神、夫として関わって下さる神、恋人として関わって下さる神など、私たち人間が人生の中で体験する様々な関わりにおいて体験する愛が、神様との関わりにおいても援用されています。そして、旧約においても救い主イエス・キリストの姿が、イザヤ53章を通して垣間見えてきます。

しかし、旧約においては、神との関わりを全き真実に生きたのは誰でしょうか？旧約における理想像モーセはイエス・キリストと重なると見ることもできますが、不完全でしょう。民数記の伝承ではモーセは自身の罪ゆえに荒野で死ぬことになりました。一方申命記の伝承ではモーセはイスラエルの罪のゆえに死ぬことになるとされ、申命記の方はイエス・キリストに近くなっています。モーセは、神に言われたことを守った方でしたが、完全ではありませんでした。ダビデも罪を犯しました。旧約の魅力は偉大な指導者達も皆人間であり、罪を犯す人間臭さがあることでしょう。その罪と人間臭さの中でも、神様が一人一人の救いのために働かれていることをこれでもかと示してくれています。

しかし、旧約は神の愛をこれでもかと示してくれていますが、神の愛そのものである方、イエス・キリストはまだでした。旧約の中ではその方が来られることを希望していることに大きな特徴があります。どんな絶望的状况においても神の働きに信頼して、神を光に歩み続けていくことが特徴です。しかし、イエス・キリストはまだでした。

私たちには、具体的に神の愛そのものの方としてイエス・キリストをいただいています。愛を学び、そして愛を生きるために、イエス・キリストを見つめましょう。

P. 志村

主の昇天の祭日 (B)

(マルコ 16 : 15 - 20)

私たち聖なる母教会には、聖なる季節を祝うために系統だった典礼年があります。それは待降節、クリスマス、四旬節、聖週間、イースター、そして年間です。このほかに、教会は記念、祝日、祭日を祝います。主の昇天の祭日は、特に大きな祭日の一つです。これは、イースターの後 40 日目となります。

イエス・キリストの昇天のお祝いは非常に意味深く、重要です。キリストの昇天は、主の公的な役割が終了し、キリストがご自分の仕事を続けるように使徒たちに託して天に昇られた日を示しています。キリストの仕事は、言葉では言い尽くせないほど困難で、難題の多いものでした。理想的な生活をし、人たちに奉仕し、教え、苦しみ、死に、復活し、そして教会を始めることでした。私たちは毎週日曜日及び日に、「天に昇って、全能の父である神の右の座に着き、」と使徒信条を唱えます。キリストの昇天は、「使命を成し遂げられて」御父のもとに帰られるイエス・キリストに対する神のご計画の最高到達点でした。私たちの救いのための使命は成し遂げられ、キリストは今や私たちと共に常に現存されています。

イエスは弟子たちに「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」と言われました。信じる人たちに洗礼を授けるために、それによって彼らが知られるようになるいくつかのしるしをおこなう力を彼らに与えられました。この福音書の物語りの最後で、私たちは初代の弟子たちが福音を教え、主が彼らに付き添うようなしるしで彼らの言葉を確認していたことに気づきます。彼らは復活した主についての福音の証人となりました。

今日、私たちは皆、言葉や行いを通して福音の証人となるように招かれています。模範的な生活をするだけで他者に福音を示さなければなりません。私たちの生活は、この世で出会う誰にでもキリストの愛、赦し、憐れみを示さなければなりません。私たちの生活を通して示さないならば、私たちは神からの報いを失うでしょう。私たちの生活は、洗礼の水によって洗われ、清められている神からの貴重な贈り物だからです。キリストの神的な名前を証言するキリストの弟子であるために、キリスト者としての召し出しに忠実でありましょう。

(Sr. Pauline)

聖霊降臨の主日

(ヨハネ 15: 26-27、16: 12-15)

長い復活節もあつという間に過ぎて、最後の日である聖霊降臨の主日を迎えました。明日から典礼の暦は年間に戻り、三位一体、キリストの聖体、イエスのみ心の祭日へと歩みを進めてゆくことになります。

イエスはやがて来られる聖霊の到来を告げます。わたしが父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき・・・と。

父なる神は、私たちの救いのためにご自分の愛する子、みことばである御子を人としてこの世にお遣わしになられ、私たちの罪の贖いのために十字架上で亡くなられることをよしとされ、亡くなられた、人となられた神の子イエスを復活させてくださいました。

そのイエスは、父のもとへとお戻りになられる前に、弟子たちに真理の霊、愛の霊、聖霊を遣わすことを告げられました。聖霊の到来について告げる他の福音の箇所では、あなたがたをみなしごにはしないとっておられます。

聖霊はどの様な方でしょう。私たちが信じる神は、父と子と聖霊の三位一体の神です。私たちが愛される父なる神は、神である子を私たちにお遣わしになられただけでなく、今度は神である真理の霊、愛の霊、聖霊を私たちにお遣わしになられたのです。

神はご自身をあますことなく、私たちに与えて下さいます。与え尽くして下さいます。その様な慈しみ深い神の愛のまなざしの中で、私たちは、神の子とされ、神の子として相応しく生きるようにと、ご自身を与えて下さいます。

今日のミサの叙唱には、「偉大な救いの業をたたえ、感謝を捧げます。」とあります。聖霊に心を開き喜びのうちに、歩んでゆくことができればどんなに嬉しいことであり、どれほど神のみ心にかなうことでしょうか。神の恵みと豊かな祝福がありますように。

(Fr. 古川利雅)

三位一体の主日 (B)

(マタイ 28 : 16 - 20)

聖霊降臨の主日の翌週にあたる今日は、私たちキリスト者が持つ信仰について思い巡らす日です。毎週日曜日に唱える使徒信条には私たちが信じる教えの基本が挙げられています。三位一体は、キリスト教のあらゆる教義を表す土台です。永遠の神秘の中の神秘でもあります。知性では理解しにくいものですが、ここで生きるべき神秘です。今日の福音は、三位一体の神秘に関する聖書上の根拠を示してくれています。

マタイによる福音書によると、イエスは昇天する直前に弟子たちを派遣して次のように言われました。「だから、あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」。父は子を無限に愛してすべてを与えられました。子は父を愛し、父にご自分を完全に捧げることでその愛に応えます。聖霊は、父と子相互の愛のあふれです。イエスが弟子たちと教会に託す神の偉大な計画とは、父と子と聖霊を完全に結ぶ愛の関係性に人類を投げ込むことです。洗礼のしるし、すなわち十字のしるしとは、「他者のために自分のいのちを捧げる」ことを意味します。私たちは、愛である三位一体の神の名において受洗されました。キリストの望みは、愛のうちにすべての人を集めることです。神は愛です。神は、聖霊の一致のうちに互いを愛する者たちの交わりです。私たちは教会であり、カトリック信者は一人残らず三位一体の神との一致と交わりのうちに生きなければなりません。

イエスは「愛しなさい」と命じられました。そのため私たちが他者を愛するときこそ、真の弟子だと認められます。洗礼を受けただけでは不十分です。私たちの救いのためにキリストが公生活中に残された命令を、私たちはイエスの弟子として生涯を通じて果たす必要があります。三位一体をたたえる今日、三位一体の交わりのうちに一人ひとりを抱きかかえてくださる三位一体の神に、心からの感謝を捧げましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 5月

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。¹
(1 ヨハネの手紙 4・8)

ヨハネの第一の手紙は、小アジアのキリスト者共同体の信徒たちに向けて書かれたものです。手紙のなかでヨハネは、異なる教義によって分裂してしまった彼らに交わりを取り戻すよう励ましています。そして彼らが、キリスト教の教え「その初めからあったもの」によく心を留め、最初の弟子たちがイエスとともに生活する中で聞いたこと、目を見たこと、よく見て、手で触れたことに立ち返るよう促しています。そうすることで共同体は、最初のキリストの弟子たちとの交わり、ひいては御父と御子イエスとの交わりをもつことができるのです。²

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

ヨハネは、神から受けた啓示の本質を思い起こさせます。神がイエスにおいて、ご自分から先に私たちを愛されたこと、さらに、イエスを通してあらゆる限界と弱さを持つ人間のすべてをご自分のものとされたことを強調します。

イエスは十字架上で、ご自身の肉において、御父と私たち人間との分裂を体験しそれを共有されました。そして、ご自身を無条件で限りない愛によって完全な贈り物とし癒しをもたらされました。イエスは、言葉とその生涯を通して、真の愛とは何かを示してくださいました。

イエスの姿から、真に愛するには勇気と努力、そして逆境や苦しみが伴うことが分かります。しかし、このように愛する人は、神のいのちに与り、神の自由と自らを捧げることの喜びを味わうのです。

イエスが私たちを愛してくださったように愛することで、兄弟姉妹との交わり、そして、神との交わりの扉を閉ざしてしまう利己主義から私たちは解放され、真の交わりを体験するのです。

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

人の魂は常に、無意識のうちに、被造物をお造りになった創造主、そして私たちの全てをご存じである神に飢え渴いていると言えます。

もし神が愛であるならば、私たちも神のように愛することで、この真理の一端を垣間見ることができるでしょう。そして私たちが、本質的に神のいのちに生き、神の光の中を歩むなら、神を知ることにおいて私たちも成長していくことができるでしょう。

それが完全に達成されるのは相互愛があるときです。私たちが互いに愛し合うなら、『神は私たちの内にとどまってくださる』³からです。それはちょうど、電流のプラス極とマイナス極が接合する時、電気がつき周りを明るく照らすのに似ています。

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

キアラ・ルービックは語っています。「初期のキリスト者たちが当時、異教の世界にあって『神が愛である』ことを証したように、神の愛は、緊迫した今日の世界にあって私たちが証するよう求められている偉大な革命です」⁴と。

では、どのように神から来る愛を生きたらよいのでしょうか？

「御子イエスから学びましょう...兄弟姉妹に仕え、特に今自分の傍にいる人のために小さなことから始め、イエスにならない自分から先に愛しましょう。自分への執着を捨てることからくる大小の十字架を抱きしめましょう。こうしてイエスが望まれるように、私たちの心は光と平和と喜びに満たされ神との交わりを体験できるように。」⁵

愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

サンタは、カトリック教会が運営するある高齢者施設をよく訪れていました。ある日、彼女は同僚のロベルタとそこに行き、背が高く、教養もありお金持ちのアルドと出会いました。アルドは若い二人を厳しい、暗い目で見ると「どうして君たちは、いつもここに来るんだね？安らかに死なせてもらいたいのに..」と言いました。サンタは気を落とさず、『ここにくるのは、あなたのためですよ、一緒にひとときを過ごしお互いに知り合いお友達になりたいんです』と言い、二人は、その後も定期的に施設を訪れました。ロベルタは、『アルドは自分の殻に閉じこもり、いつもひどく落ち込んでいました。彼は神を信じていませんでした。サンタだけが、彼のそばに寄り添い、何時間でも優しく彼の話に耳を傾けていました。』と。サンタはアルドのためにいつも祈っていました。ある時サンタが、ロザリオを彼に渡すと、アルドは受け取ってくれました。後でサンタは、死の間際にアルドがサンタの名を口に、ロザリオを手に握りながら安らかに息を引き取ったと聞いて、彼女の悲しみは和らぎ心に慰めを感じました。

シルヴァーノ・マリーニと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. 1ヨハネの手紙 1, 1-3
3. 1ヨハネの手紙 4, 12
4. キアラ・ルービック対談集より、チッタノーバ誌、ローマ 2019, p. 142
5. キアラ・ルービック「いのちの言葉」1991年5月

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< **Communications** (時事通信) >>

2024年4月8日

アウレリオ・ガゼラ神父OCDとヨハネス・ゴラントラ神父OCDが新司教に



(アウレリオ・ギャザラOCD 新補佐司教)

(ゴラントラOCD 新司教)

中央アフリカ共和国のアウレリオ・ギャザラ神父OCD、バンガースー教区の補佐司教に任命される

2024年2月23日(金)、跣足カルメル修道会のアウレリオ・ギャザラ神父は、中央アフリカ共和国 バンガースー教区の補佐司教に任命されました。

アウレリオ神父は1964年5月27日にイタリアのクーネオで生まれ、1974年にアレンツァーノのOCD小神学校に入学し、1979年にジェノバ管区で初誓願をたててから、中央アフリカ共和国代表団のもとで1年間の養成を終了しました。その後、彼は1986年10月11日に荘厳誓願を立て、1989年5月27日に司祭に叙階されました。

アレンツァーノ小神学校で養成担当者としてしばらく奉仕した後、彼は中央アフリカ共和国で宣教を始め、そこで次のような役割を務めました：ヨールの小神学校のアシスタント(1992-1994)。同じ神学校の初等部門の校長(1994-2003)。ボズムのサン・ミッシェル教区司祭(2003-2020)。中央アフリカ共和国代表団(2014-2020)の団長、などです。2003年からはブワルのカリタスを担当し、2020年からは村のキリスト教徒のために奉仕し、バオロの機械専門学校の校長を担当しました。

インドのヨハネス・ゴラントラ神父OCD、カルヌール教区司教に任命される。

2024年2月27日(火)、跣足カルメル修道会のヨハネス・ゴラントラ神父がインドのカルヌール教区の司教に任命されました。

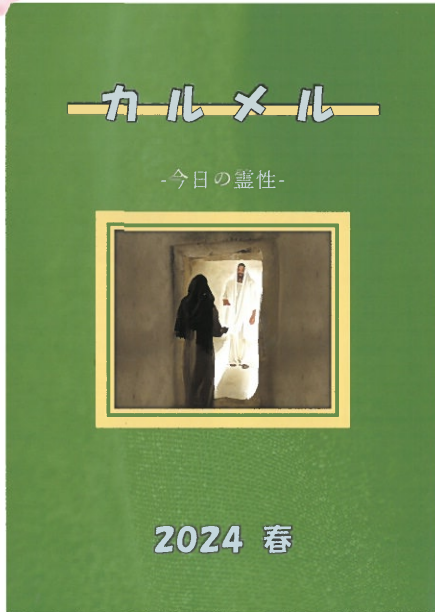
1974年2月27日生まれの彼は、1994年2月11日に初誓願を立て、2000年4月2日に荘厳誓願を宣立しました。2002年1月10日に彼は司祭に叙階され、ローマのテレジアヌムで神学を学び、ローマの聖書研究所で旧約聖書の資格を取得し、ローマのグレゴリオ大学では彼に聖書神学の博士号が授与されました。これらローマ時代の研究に先立ち、彼はインドのケララ州にあるマハトマ・ガンジー大学で哲学を学んでいました。

2008年から2011年まで、ヨハネス神父はアンドラ プラデーシュ地区の地区長を務め、2011年から2014年までの3年間、新しい管区の初代管区長を務めました。また2010年7月から2014年7月まで、アンドラ プラデーシュ地区の宗教協議会の会長、インド国民会議の執行委員を務めました。彼は、アンドラ プラデーシュ地区で、カトリック教育組織の副会長、聖書委員会と福音宣教委員会のメンバーを務めてきました。彼は6年間カムナム教区の顧問を務め、神学と霊性の「ジョティル バワン」研究所で7年間旧約聖書を教えました。彼は聖テレジアの『自叙伝』をテルグ語に翻訳し、イエスの聖テレジアトリジューの聖テレーズについての2冊の本を執筆し、他にも多くの記事を書いています。

2015年、スペインのアビラで開催されたOCD総会で、ヨハネス神父は総長顧問に選出され、2021年からはテレジアヌムの専門共同体である宣教者神学院の院長を務めました。

(訳・注:小宮山延子)

カルメル誌 新刊案内



2024年 春号 No.392

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(5) 鶴岡賀雄

シノダリティにおける「信仰の感覚」と
十字架の聖ヨハネの「暗夜」の一考察 松田浩一

テレーズ列聖百周年に向けて
—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(1)
伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ＝神のいのちへの道(1) 椿 権三

風に吹かれて再び(7)—バベルの塔 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(9) 九里 彰

霊的研究会講義録(23)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味：

カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちばんの奥底に…
—アビラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰

神との出会いの喜び
—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて
松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話Ⅱ

【出版社】 教友社

【著者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

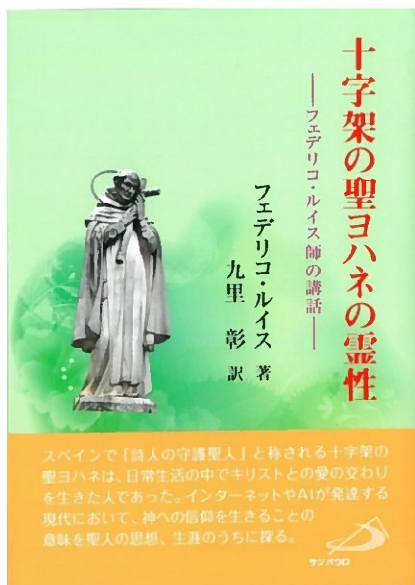
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士。東洋の宗教思想、特に神祕主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。



**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

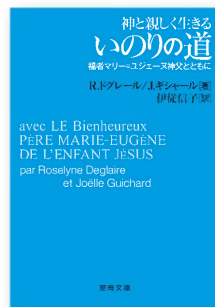
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



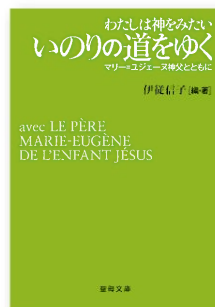
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

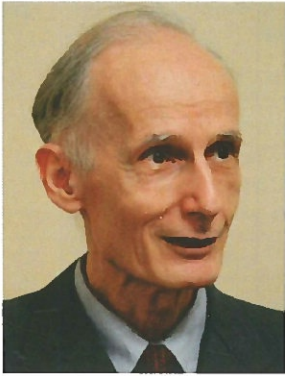
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

| | | ISBN |
|-----|--|--|
| 第1巻 | I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p | 定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税 |
| 第2巻 | II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p | 978-4862852175 4,600 円+税 |
| 第3巻 | III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p | 9784862852205 5,000 円+税 |
| 第4巻 | IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p | 9784862852212 4,000 円+税 |
| 第5巻 | V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わりが薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p | 9784862852229 4,200 円+税 |

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2024年4月～)

- ・ 聖書深読黙想会 (土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2024年

4月20日～21日

11月9日～10日

5月25日～26日

2025年

7月27日～28日

1月11日～12日

9月28日～29日

3月15日～16日

- ・ 奉獻生活者のための黙想会 (初日 17時～最終日朝食) カルメル会士
2024年8月16日 (金) ～25日 (日)

★教会の祈り (時課の祈り) を軸とした 黙想の場を提供いたします。

12月27日 (金) ～1月5日 (日)

【ご利用に際して】

- ・ 介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・ 上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・ 個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・ 部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

2024年 カルメル会四旬節講話シリーズ

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)
聖テレーズ生誕 150 周年記念 教皇フランシスコ使徒的勧告『信頼』に導かれて…

- 第1回 2月18日(四旬節第1主日)
「私は愛になりましょう」—愛の道を飛んでいくために— 今泉健神父
- 第2回 2月25日(四旬節第2主日)
詩『むしられたバラ』より —テレーズの愛の道— 九里彰神父
- 第3回 3月3日(四旬節第3主日)
「テレーズの信頼の道・小さい道とヤコブ・イスラエルにおける小さい道」
志村武神父
- 第4回 3月10日(四旬節第4主日)
「現代の闇を照らす灯火—テレーズの信仰の試練」
片山はるひ(上智大学教授:ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 第5回 3月17日(四旬節第5主日)
「小さな偉大さ」 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

・会場:東京世田谷区上野毛2-14-25(東急大井町線「上野毛」下車
徒歩5分) カルメル修道会 聖堂

・開始時間:14:00 講話後 当日のミサがあります。

・講話を期間限定でインターネット動画配信しています。(1時間~1時間40分程)
予告なく削除されますので、ご了承ください。

アクセスコード URL:

<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

主催:カルメル修道会
お問い合わせ:「四旬節講話係」
reisei@carmel-monastery.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年5月18日（14：30～16：30）

士師記の全体構造とメッセージ

2024年6月22日（14：30～16：30）

サムエル記の全体構造とメッセージ①

その後の日程：7月20日、9月21日、10月19日、11月16日

その後のテーマ：サムエル記の全体構造とメッセージ②、列王記の全体構造とメッセージ、エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年6月29日（土）10：00～15：00

テーマ：アビラの聖テレジアの祈り

講話担当司祭：今泉武神父

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：聖書、昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）



宇治カルメル会 黙想会案内 (2024年5月～2025年3月)

【一般のための黙想】 1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

2024年

7月20日～21日 9月14日～15日 11月16日～17日

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2024年

6月8日 9月28日 11月30日

2025年

1月11日 3月15日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

2024年

5月15日 6月12日

7月17日 9月11日 **変更**→18日 10月16日 11月27日 **変更**→20日

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時)

カルメル山の聖母 7月14日(日)～15日(月) 中川博道神父

幼き聖テレジア 9月28日(土)～29日(日) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12月21日(土)～22日(日) 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4月27日(土) 午後5時～5月4日(土) 朝食

参加者は全日通しでもどの日からでも期間は自由

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

5月7日 6月4日 7月2日

9月17日 11月12日 12月3日

【祈りの学校 教会の祈り】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

5月23日 6月20日 7月11日

9月26日 10月17日 11月14日 12月19日

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

2024年

8月9日(金)～18日(日) 松田浩一神父(奉献者のみ)

10月7日(月)～16日(水) 中川博道神父(一般可)

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父(一般可)

2025年

3月4日(火)～13日(木) 中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】（35歳以下） 松田浩一神父

1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可）

2024年

6月15日～16日 10月19日～20日

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしておりますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「祈りの学校」(2024年度)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(入門編) : 1月30日(火) 2月20日(火)、3月19日(火)、4月9日(火)、5月7日(火)、6月4日(火)、7月2日(火)、9月17日(火)、11月12日(火)、12月3日(火)

***日時(教会の祈り)** : 1月11日(木)、2月13日(火)、3月21日(木)、4月18日(木)、5月23日(木)、6月20日(木)、7月11日(木)、9月26日(木)、10月17日(木)、11月14日(木)、12月19日(木)

いずれも、10時から16時まで

場所 : 宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導 : 松田浩一 神父 (男子カルメル修道会)

持参するもの : ノート、筆記、ロザリオ (*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒158-0093 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7456

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① 2024年2月10日（土）PM5時～2月11日（日）PM5時

② 2024年4月20日（土）PM5時～4月21日（日）PM5時

③ 2024年6月15日（土）PM5時～6月16日（日）PM5時

④ 2024年10月19日（土）PM5時～10月20日（日）PM5時



（尚、日曜日 PM4時から京都女子カルメル修道院でミサの予定）

- ① 教皇来日講話集：『すべてのいのちを守るため』
- ② 使徒的勧告 『喜びに喜べ』
- ③ 使徒的勧告 『愛のよろこび』
- ④ 回勅 『ラウダート・シー』と使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対 象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp





朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター サダナ瞑想 慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

テーマ 真の幸せへの道

「…あなたがたは喜びで満たされる」

(ヨハネ16.24)

毎月第2木曜日 (10:00～15:00)

予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」 (ソットコルノラ・フランコ神父)
- 2月 8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」 (ソットコルノラ・フランコ神父)
- 3月14日 心の貧しい人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
- 4月11日 悲しむ人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
- 5月 9日 柔和な人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)
- 6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
- 7月11日 憐れみ深い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
- 8月 休み
- 9月12日 心の清い人々は、幸いである (コデノッティ・クラウディオ神父)
- 10月10日 平和を実現する人々は、幸いである (Sr. マリア・デ・ジョルジ)
- 11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである
(コデノッティ・クラウディオ神父)
- 12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。(コデノッティ・クラウディオ神父)



・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします (要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

| コース | 日時 | 指導 | 開催場所 | 申込み |
|---------------|-------------------------------|----|--------------------------------------|--|
| サダナⅠ | 5/23(木)17:30- 5/26(日)16:00 | 同上 | 小金井聖霊修道院 ／小金井市桜町 | 来間(くるま) 裕美子※ *ショートメールは避けてください。 TEL:090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp |
| 沖縄 フォローアップ | 5/30(木)9:00- 5/31(金)18:00 | 同上 | 沖縄県内施設 (受付にお問合せください) | 佐藤 芳樹 Tel:080-3188-6573 jonah3295@gmail.com |
| 沖縄 I&アドバンス | 6/1(土)9:00- 6/2(金)18:00 | 同上 | ※通いも可能です | |
| 名古屋入門B | 6/9(日) 9:30-17:00 | 同上 | 聖霊会 八事修道院 ミッションセンター | 攪上(かくあげ)暁子 Tel:090-7108-7410 ngosdn@gmail.com |
| 入門C | 6/16(日) 9:30-17:00 | 同上 | 援助修道会 リヒト宣教室 (東京都新宿区市ヶ谷 田町) | 来間(くるま) 裕美子※ |
| サダナⅡ | 6/19(水)17:30- 6/23(日)16:00 | 同上 | 小金井聖霊修道院 ／小金井市桜町 | 来間(くるま) 裕美子※ |
| 名古屋入門C | 7/7(日) 9:30-17:00 | 同上 | 聖霊会 八事修道院 ミッションセンター | 攪上(かくあげ)暁子 Tel:090-7108-7410 ngosdn@gmail.com |

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax:042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年は1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アピラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 以下の木曜日、13:30～15:30

5月9日 7月11日

9月12日 11月14日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

